

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 接合科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国際溶接技術者コースで、国際的に活躍できる高度溶接専門技術者・管理技術者を育成した。計11名が国際溶接技術者資格を取得したこと、大陽日酸、ベトナムジャパンガス、ハノイ工科大学機械工学部、研究所の4者による国際産学連携共同研究の調印式が、在越日本大使館の後援により日越関係樹立45周年記念の記念行事として行われ、日越首脳共同声明の中に「国際的な産学連携共同研究を通じた将来のベトナムの科学技術人材の育成において協力することを決定した。(抜粋)」として盛り込まれたことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、研究所の国際共同研究員制度、(JIJReC)などを活用することにより、国際共同研究の数は、平成30年度は16件となり、平成29年度の9件から大幅に増加したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		ハノイ工科大学に設置した国際ジョイントラボの活性化のために「大阪大学接合科学研究所ベトナム溶接研究会」を発足させ、JETROハノイと発足記念セミナーを開催したこと、さらには協働研究所、共同研究部門をそれぞれ1件新たに開設したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		「大阪大学接合科学研究所ベトナム溶接研究会」を発足させ、在ベトナム日系企業を中心に民間企業が同研究会に参画し、ハノイ工科大学と本研究所と民間企業による国際的な産学連携の基盤を整備したこと、また、上海交通大学、王立メルボルン工科大学、ハノイ工科大学に3つの国際ジョイントラボを新たに発足させたことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント】 常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択金額について、大型プロジェクト獲得のために組織として意欲的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、積極的に取り組むことで目標値を上回り、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。</p>
--